

島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会

提言書（案）

平成 28 年●●月 ●●日

島田市教育委員会
委員長 五條 早規子 様

島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会
委員長 武井 敦史

島田市における教育の在り方について（提言）

平成 27 年 6 月 3 日、島田市教育委員会から委嘱を受け、島田市における教育の在り方について協議・検討を重ねてまいりましたが、次のとおり意見を取りまとめましたので、提言いたします。

はじめに

本検討委員会は、平成 27 年 6 月に島田市教育委員会の委嘱を受けて、教育の有識者、地域住民や保護者、教職員の代表など様々な立場の委員で組織されました。

教育を取り巻く環境の現状と課題を共通認識することから始まり、人口減少・少子化が進む中、いかに島田市の教育をより魅力あるものにしていくべきかを議論してまいりました。ここに未来に向かっていくための、島田市の教育の在り方について提言いたします。

第 1 章 島田市の教育の現状

今後、日本社会は人口減少やグローバル化をはじめ、ICTの進化やAIの普及など、様々な社会変化の中で、生活環境、職業環境は激変していくことが予想されます。加えて核家族化の進行や家庭の経済的格差の拡大により、子育て環境が不安定になりつつあることもまた事実です。

そうした挑戦的な時代をたくましく生き抜いていく子供たちの成長を支えていくためには、従来の教育の慣行を脱却し、主体性を持って新たな教育の在り方を模索していかなければなりません。島田市に生きる子供たちが、幸せな未来を期待できるよう教育環境を整備することは市民すべての責務であると考えます。

島田市では、地域の協力による学校支援も進み、子供たちを見守る地域ボランティアは多く、学校教育における地域人材の活用が進んでおります。中でも、島田市商工会青年部が主催するジュニア・エコノミー・カレッジや、六合地区のコミュニティー委員会が行うチャレンジクラブなど、地域が主体となって子供たちの活動を支援する事業が積極的に展開されてきております。

また、島田市の学校は、個に焦点を当てた教育を核に、和文化教育をはじめとした心の教育も小中連携の中で推進してきました。これまで拡大する教育ニーズに対応すべく機能を拡大させてきました。しかしながら、そうした学校現場での努力も飽和状態に達しつつあり、改善のための大幅な資源投入も期待しにくい状況となりつつあります。

本委員会では、こうした認識から、未来に生きる島田市の子供たちの健やかな成長を支えるため、何が必要かについて検討を重ねてきました。以下に示すのは地域の教育力を戦略的に活用しつつ、今後の島田市の教育を共に考えていくためのたたき台となることを念頭において作成された提案です。

第2章 島田市の教育の方向性

1. 島田市の教育の理念

島田市の今後の発展のためには、これからの厳しい時代を生き抜くための確かな学力や、夢に向かって頑張る強い心、そして地域愛を育てる教育の充実が益々求められます。「島田市が好きと答えた成人の82%が島田市に住みたい」（平成28年成人式アンケート）と回答していることから、こうした地域に根ざした教育こそ、島田市民の今後の豊かな生活に資するものと考えます。

平成27年度の総合教育会議で制定された教育大綱では、「**市民総がかりで育む豊かな心と学び**」が基本方針として決定されています。

そのためには、学校・家庭・地域それぞれにおいて、これまでの活動を必要に応じて見直し、核となるものを決め、これをテコにしながら改善を進めることが必要になってきます。

こうした背景から島田市の教育理念のキャッチフレーズを

「地域総ぐるみで進めましょう 夢育・地育の花咲く 島田の教育」

とし、学校・家庭・地域が一体となって、理想とする教育を目指すことを提案いたします。

2. 理念実現のための基本的方向性

以上の教育の理念を実現するための基本的方向性として、次の5点を提案します。

1. 地域が主体性をもって教育に参画し、学校と協働して共に教育を支えるしくみを整えること。
2. 地域の文化や伝統を継続するために、地域が主体性を持って教育機能を分担するしくみを整えること
3. 就学前からの家庭教育を地域全体で支えるしくみづくりを進めること。
4. 今後必要とされる学校再編については、地域の生活や文化・伝統の存続及び活性化を島田市全体で支えるという前提のもとに、これを実施していくこと。
5. 以上を実現していくため、学校・地域それぞれにおいて、組織のあり方を必要に応じて見直し、力を集約して改善に当たる方策を検討し、教育委員会と島田市は協力してこれを支えていくこと。

第3章 理念実現に向けた手立て

基本的方向性を受けて、理念を実現させるための手立てとして次の4点を提案します。

1. 「夢育」の中核的活動として、英語教育や先進科学技術教育・ICTの活用を通して、世界的な視野をもった市民性を育てていくための教育を充実させること。
2. 「地育」の中核的活動として、就学前から学齢期に至るまでの成長プロセスを通して、地域の特色・魅力づくりに関係していくための主体的活動を導入し、学校・家庭・地域それぞれの役割を明確化し、これを足かぎりに子どもの成長環境の改善を図ること。
3. 今後、学校教育に課されることが予想される「社会に開かれた教育課程」、「アクティブラーニング」、「市民性教育」、「コミュニティスクール」、「チーム学校」等の課題に対し、個別に対応していくのではなく、これらの課題を有機的に関係づけ、核を形成して集約的に対応していくこと。
4. 児童生徒の教育環境確保の観点から学校再編を検討し、学校建築の工夫も含めて学校配置の最適化を模索すると同時に、当該地域の文化・伝統の維持や地域活性化を図っていくこと。

また、これらを円滑かつ効果的に導入していくための方策として、次の3つのプロセスを踏んでいくことが考えられます。

- ① 課題に応じ専門的なワーキンググループを立ち上げて、具体的計画を策定し、これを実現に移していくための議論を開始すること
- ② 試行地域を設定し、教員加配等の予算措置も講じた上で、その成果・課題を検証すること。
- ③ 試行地域の成果を見極めながら漸次的に市内全域に拡大していくための計画を策定すること。

以上の取り組みを実りある成果へと繋げていくためには、人材面・財政面・知的資源面等において、島田市（市長部局）と島田市教育委員会との間の緊密な連携・協力関係が必要とされることは言うまでもありません。

とりわけ、困難が想定される予算面での協力については、効果の程度と波及の可能性を見極めるための試行地域への初期投資は市の負担に頼るほかありませんが、長期的には「ふるさと納税」など様々な財源を確保し、次世代の魅力ある島田の学びのかたちを広く発信することで、市民が主体的な意思を持って教育を支えるしくみを整備していくことも検討できます。

島田に住む全ての人々が主体性を持って教育に参画し、市民の文化的生活の質を高めていくことにより、経済的にも文化的にも活気のある未来の島田市が作られていくものと委員一同信じております。

島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会委員

委員名	役職等	備考
たけい あつし 武井 敦史	静岡大学教授	委員長
いけだ かつひろ 池田 勝太	元六合幼稚園長	副委員長
もりさわ じゅん 森澤 淳	商工会青年部副部長	
いけがや としゆき 池ヶ谷 俊幸	神座小学校元評議員	
たむら はつみ 田村 初美	六合東小学校評議員	
ふじた よしひと 藤田 嘉士	島田第四小学校保護者	
おざわ 小澤とし子	川根小学校保護者	
おきつ ひろふみ 興津 博文	島田第一中学校校長	
かみや のりゆき 神谷 紀行	島田第四小学校主幹教諭	

島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会開催状況

- 第1回 平成27年6月3日
- 第2回 平成27年7月22日
- 第3回 平成27年10月5日
- 第4回 平成27年11月18日
- 第5回 平成28年1月21日
- 第6回 平成28年2月29日
- 第7回 平成28年6月27日
- 第8回 平成28年7月27日
- 第9回 平成28年8月18日